

## 兵庫県医師会医療支援チーム（第40陣）「宮城県災害支援現地報告」

洲本市医師会 瀧川 卓

6月9日10時45分、仙台空港に到着。迎いのジャンボタクシーに乗り、12時ごろに兵庫県医師会の救護所がある石巻中学校に到着。東京の多摩地区医師会の青木誠先生、次いで巡回診療から戻って来られた西宮市医師会の下永田剛先生と合流。石巻中学校の体育館には当初の3分の1に減ってはいるものの、まだ117名の方が身を寄せている。ただ日中いるのは20数名ぐらいだろうか。今は救護所を訪れる患者さんは少ない。

滞在中、午前には山下中学校へ巡回診療。3時から住吉中学校に移動しての巡回診療。夜6時から、石巻赤十字病院で全体ミーティング。同病院の石井医師より連絡事項が伝えられる。その後、仙台のホテルへ帰り、チーム5名揃って晩ごはん。

11日朝7時36分マグニチュード5.0の地震あり。石巻市は震度3と発表されたが、石巻中学校のある高台ではそれほど揺れず。しっかりした岩盤の上に乗っかっているらしい。

12時すぎに山下中学校での巡回診療から戻ると、次の山根光量先生以下5名が到着していた。昼のお弁当をはさんで、それぞれ申し送り。

午後2時すぎ、チーム山根にあとのことを託して、石巻中学校を出発。5時30分発のJAL機に乗って、6時50分に大阪伊丹空港に帰着した。

急性期をすぎた避難所の救護所での活動のため、震災直後に派遣された先生方のようなあわただしい診療は経験できなかった。医師・看護師・事務職だけの診療で一番困ったことは、薬剤の管理。在庫が確認できていない薬剤を見つけることがかなり難しい。

地元医療機関が再開して救護所の必要性はなくなったが、基幹病院でのスタッフの疲弊が心配される。看護師・保健師の場合は避難所の見守り等で今後も活躍の場所が残されているが、我々も一医師として何らかの形で引き続き応援ができないだろうか。